

# 免疫アレルギー疾患研究10カ年戦略の 方向性について

平成30年8月23日



厚生労働省 健康局 がん・疾病対策課

# 第1回検討会における主な意見

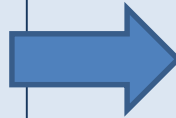
- 本研究戦略の期間は、10年とする
- 玉利班報告書(平成29年度厚生労働科学特別研究事業)を基にして、研究戦略を策定していく
- 追加すべき・重視すべき事項
  - ・患者数減少に加え、疾患状況を違う尺度で「見える化」
  - ・基礎研究の充実
  - ・患者連携の国際化
  - ・患者の人権と命をより配慮するためにも、研究への患者参画も重要
  - ・社会への啓発等を通じ、患者の生活(就労や教育等)の質が高まる社会の構築
  - ・治療による改善に加え、患者における生活の質の維持向上
  - ・国際共同研究や新規薬剤の臨床研究等に遅れないための基盤整備
  - ・人材育成、国際交流を推進し、国際発信力を高める
  - ・小児期から成人期への移行期に対しての取組
  - ・既存のシステムを活用した、新規薬剤等への評価

# アレルギー疾患対策における本研究10力年戦略の位置づけ

## アレルギー疾患対策基本法(平成26年6月公布) アレルギー疾患対策の推進に関する基本的な指針(平成29年3月告示)

### (基本法における基本的施策)

- ・重症化の予防及び症状の軽減
- ・均てん化の促進等
- ・生活の質の維持向上
- ・研究の推進等



### (基本指針における基本理念)

- ・生活の仕方や生活環境の改善
- ・医療の質の向上及び医療提供体制の整備
- ・生活の質の維持向上のための支援体制整備
- ・研究の推進とその成果の普及・活用・発展

## 免疫アレルギー疾患を有する者が安心して生活できる社会の構築

### 医療の均てん化

医療提供体制の整備

標準治療の進歩・普及

### 重症化の予防及び症状の軽減

医薬品・医療機器開発

### 生活の質の維持向上

生活実態を含む疫学研究

行政、学会、国民等による推進

国内外の産学官民連携に基づく研究10力年戦略の実践

アレルギー疾患医療提供体制に関する在り方検討会報告書  
(平成29年7月発出)

戦略1  
(本態解明)

戦略2  
(社会の構築)

戦略3  
(疾患特性)

免疫アレルギー疾患研究10力年戦略

# 免疫アレルギー疾患研究10カ年戦略の全体像(案)

## 免疫アレルギー疾患が有する特徴

- ・多くは慢性の経過をたどり、改善や悪化を繰り返すことがあるために、長期にわたり生活の質を著しく損なう
- ・アナフィラキシーや一部の薬剤アレルギーなど、突然の増悪により、致命的な転機をたどる場合もある

## 10年後に目指すべきビジョンのキーワード

- ・免疫アレルギー疾患における「コントロール改善」と「防ぎ得た死の根絶」
- ・研究成果等を社会実装し、安心して生活できる社会の構築
- ・国民が協力・参画した疫学研究等により、疾患状況や生活実態等を「見える化」する
- ・層別化医療、先制治療の実現      ・産学官民連携による医薬品・医療機器開発の推進
- ・ライフステージ別の医療や社会支援の最適化



## ビジョンの実現に必要なとされる3つの目標と戦略

### 目標1

免疫アレルギー疾患の「見える化」に基づく患者数の(x%)減少と革新的な医療技術に基づく層別化予防・診断・治療や先制治療の実現に向けて、新規治療につなげるための基盤となる研究を推進

### 目標2

患者を含む国民が参画する免疫アレルギー疾患の疫学研究や国際的研究開発の基盤確立、研究成果等の社会への還元に向けて、国内外の産学官民のあらゆる力を結集して研究開発を行う仕組み作りを推進

### 目標3

ライフステージ別の医療の最適化や、重症免疫アレルギー疾患における「防ぎ得た死」をゼロにするため、各疾患の持つ特徴に合わせた診断方法や治療法と対象者に応じた教育資料の開発を推進

### 戦略1: 本態解明

先制治療等を目指す免疫アレルギーの本態解明に関する基盤研究

### 戦略2: 社会の構築

免疫アレルギー研究の効果的な推進と社会の構築に関する横断研究

### 戦略3: 疾患特性

ライフステージ等免疫アレルギー疾患の特性に注目した重点研究